

地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.1

『親子で知ろう 防災 ～伊勢湾台風から55年～』に参加

今年は、東海地方に甚大な被害を与えた昭和34年伊勢湾台風から55年の節目にあたります。近年、大型化する台風や局地的豪雨・集中豪雨が発生している中、この災害から得た教訓を学び、防災意識を深め、地域防災力の向上に向けた防災啓発活動を実施しました。

■実施年月日

平成26年5月 3日(土) ～ 15日(木) パネル展示
平成26年5月10日(土) ～ 11日(日) イベント開催

■実施場所

イオン桑名ショッピングセンター 1番街

■参加機関

国土交通省 中部地方整備局 木曾川下流河川事務所
一般社団法人 中部地域づくり協会

■イベント参加者

約150名(2日間)

■実施内容

パネル展示 (5月3日～15日)

- 映像上映 モニター1ヶ所設置
上映DVD「迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて」
「昭和34年 伊勢湾台風」「忘れない、東海豪雨」
- パネル展示 計7枚
伊勢湾台風など中部の大規模水害 4枚、未来への備え 3枚

イベント (5月10日～11日)

- ぬりえコーナー
- 液状化等実験コーナー
- クイズコーナー

イベントコーナーの中でも液状化実験は、子どもだけでなく、大人の方にも好評であり、多くの方の関心を集めました。小さなお子さんは、ペットボトルを使用した簡易な液状化実験や雲をつくる実験などに大変興味をもってくれました。

また、クイズコーナーではパネルを見て答える仕組みとしたこともあり、親子で防災に関するクイズに取り組みながら、災害に対する日常からの備えについて強い関心を示されました。



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.2

『平成26年度 木曾三川連合総合水防演習・広域連携防災訓練』に出展

木曾川下流域における洪水被害、いなべ市における大規模土砂災害被害、四日市港における高潮被害を想定し、水防関係者の水防技能の習熟と、防災関係機関が相互に連携した複合型災害に対する各種訓練による、防災体制の確立を図ることを目的として実施された水防演習に出展し、この地域で発生した伊勢湾台風等に関する映像上映やパネル展示等を通じ、防災力の向上に向けた防災啓発活動を実施しました。

■実施年月日

平成26年5月18日(日) 9:00~12:00

■実施場所

【メイン会場】 三重県桑名市長島町 長島運動公園 (木曾川右岸河川敷)

■主催

国土交通省中部地方整備局、三重県、関係市町村 他

後援：一般社団法人 中部地域づくり協会 他

■参加者

約2,300名(演習参加者 約2,000名、来賓・一般・報道 約300名)

■実施内容

- 映像上映 モニター2ヶ所設置
上映DVD「昭和34年 伊勢湾台風」
「迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて」
「忘れない、東海豪雨」
- パネル展示 計46枚
伊勢湾台風浸水状況写真 1枚
明応地震・宝永地震・安政東海地震・濃尾地震など歴史的地震 19枚、
伊勢湾台風・平成18年7月豪雨など中部の大規模水害 18枚、
痕跡が伝えるもの 5枚、未来への備え 3枚
- 液状化実験等
- 啓発資料
近年の豪雨災害記録集2013 “9.28豪雨災害から30年”

今年度の水防演習では小学生や大学生の参加があり、液状化実験やDVD映像などは、脆弱な濃尾平野にくらす人々にとって大きな関心をもたれました。また、当協会ブースの周辺において降雨体験機や浸水ドアなどの体験型機材を用いた啓発活動が行われていました。



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.3

『 中部ライフガードTEC2014 防災・減災・危機管理展 』に出展

近年、中部地方を始めとして南海トラフの巨大地震の発生が懸念され、防災・減災に向けた取り組みの推進が課題となっています。このような中で防災意識の向上と防災・減災関係産業の振興を図ることを目的とした多様な業種の企業が参加する企業展が企画され、これに出展することにより、防災力の向上に向けた防災啓発活動を実施しました。

■実施年月日

平成26年5月22日(木) ~23日(金) 10:00~17:00

■実施場所

ポートメッセなごや2号館(名古屋市国際展示場)

■主催

名古屋国際見本市委員会 (構成:名古屋市、愛知県、名古屋商工会議所 他)

■見学者

約300名

■実施内容

- ・ 映像上映 モニター1ヶ所設置
上映DVD「昭和34年 伊勢湾台風」
「迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて」
- ・ パネル展示 計32枚
右ブース:明応地震・宝永地震・安政東海地震・濃尾地震など歴史的地震 16枚、
左ブース:伊勢湾台風・東海(恵南)豪雨など中部の大規模水害 8枚、
伊勢湾台風浸水状況写真 1枚
痕跡が伝えるもの 3枚、未来への備え 3枚、防災活動を支援します 1枚
- ・ 液状化実験等
- ・ 啓発資料
近年の豪雨災害記録集2013 “9.28豪雨災害から30年”

2回目の出展となった今回は、パネル展示やDVD上映の他に体験型の防災啓発活動として液状化実験などを展示したところ、南海トラフ巨大地震に由来する歴史的地震について強い興味を示され、出展依頼等の問合せも多数いただきました。



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.4

『 名城大学と国土交通省中部地方整備局との連携・協力に関する協定 締結記念キックオフイベント 』に協力

上記締結記念キックオフイベントとして、防災フォーラム「21世紀型自然災害に向けた中部地方レジリエンス - 官・学の役割と連携に向けて - 」ならびにNDRR研究成果中間報告会が開催されました。

第1部防災フォーラムでは伊藤義人名古屋大学教授他ら有識者によるパネルディスカッションが行われ、中部地方の防災・減災をキーワードとして、ご自身の研究や各機関での取り組み等の紹介がありました。第2部では名城大学自然災害リスク軽減研究センターの研究成果の中間報告が催されました。

当研究所はこれに併設して、DVD上映やパネル展示を実施し、学生や参加された方を対象に防災力の向上に向けた防災啓発活動を実施しました。

■実施年月日

平成26年6月11日(水)～13日(金)

■実施場所

名城大学 天白キャンパス

■主催

名城大学 自然災害リスク軽減研究センター

■イベント参加者

約100名(主にキックオフイベントに参加された方や学生の方)

■実施内容

- ・ DVD上映 モニター2ヶ所設置
映像DVD「昭和34年 伊勢湾台風」
「迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて」
- ・ パネル展示 計33枚
濃尾地震・明応地震・宝永地震・安政東海地震など歴史的地震 11枚、
伊勢湾台風・東海(恵南)豪雨・三六災害など中部の大規模水害 12枚、
痕跡が伝えるもの 7枚、未来への備え 3枚

土木技術者等を志す学生のみなさんは、中部地方を襲った大規模災害の特徴や課題に大きな関心をもたれました。



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.5

『 防災フェア桑名2014 地震大雨を体験して災害にそなえる 』に参加

海拔ゼロメートル地帯が広がる木曾三川下流域における地域防災力向上のため、地震体験機や降雨体験機などの体験型の機材を用いた防災啓発フェアに参加しました。

当研究所はこの地域で発生した伊勢湾台風等に関するDVD上映やパネル展示等を通じて、防災意識を深め、地域防災力の向上に向けた防災啓発活動を実施しました。

■実施年月日

平成26年7月19日(土) ~ 20日(日)

■実施場所

イオン桑名ショッピングセンター 正面入口

■参加機関

防衛省自衛隊三重地方協力本部、気象庁津地方気象台、三重県防災対策本部、桑名市消防本部、日本赤十字社三重県支部、一般社団法人日本非常食推進機構、特定非営利活動法人三重県木造住宅耐震促進協議会、特定非営利活動法人木曾川文化研究会、一般社団法人中部地域づくり協会、桑名市防災・危機管理課、国土交通省木曾川上流河川事務所、国土交通省木曾川下流河川事務所

■イベント参加者

約800名(2日間)

■実施内容

- 映像上映 モニター1ヶ所設置
上映DVD 「迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて」
「昭和34年 伊勢湾台風」「忘れない、東海豪雨」
- パネル展示 計8枚
伊勢湾台風など中部の大規模水害 4枚、未来への備え 1枚、痕跡が伝えるもの 3枚

降雨体験機や地震体験車などの体験型機材、防災クイズラリーなどが企画され、親子でクイズに取り組む姿や体験する姿が多く見られました。また、パネルを見てクイズに答える問題であったことから、お子さんにも自然災害に対する関心をもていただく機会となりました。



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.6

『建設技術フェア2014 in 中部』に出展

建設技術フェアは当研究所の継続的な活動として平成22年度より参加しており、今回で5回目の出展となりました。出展テーマは昨年と同様の「大規模災害から学ぶ地域防災力の強化」と題し、中部の歴史的な地震災害から得た教訓を継承し、南海トラフ巨大地震に備えるべく防災意識を深めることを目的に、液状化実験・DVDの上映及びパネル展示等を通して、防災力の向上に向けた防災啓発活動を実施しました。

■実施年月日

平成26年10月29日(水) ~ 30日(木)

■実施場所

吹上ホール (名古屋市中小企業振興会館)

■主催

建設技術フェア in 中部実行委員会

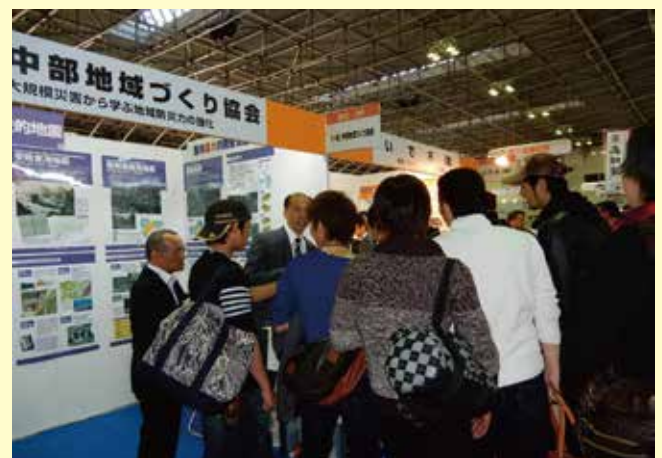
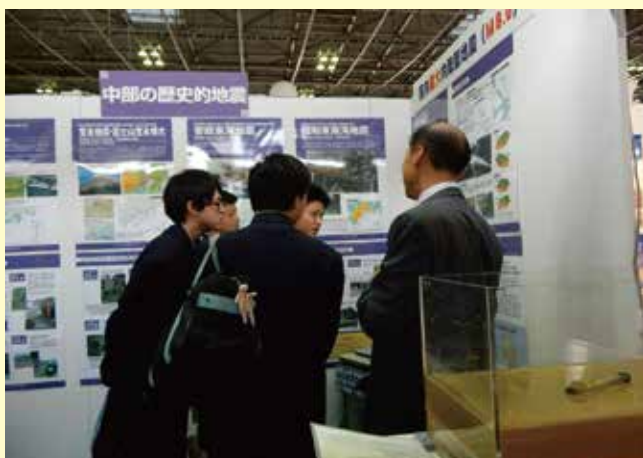
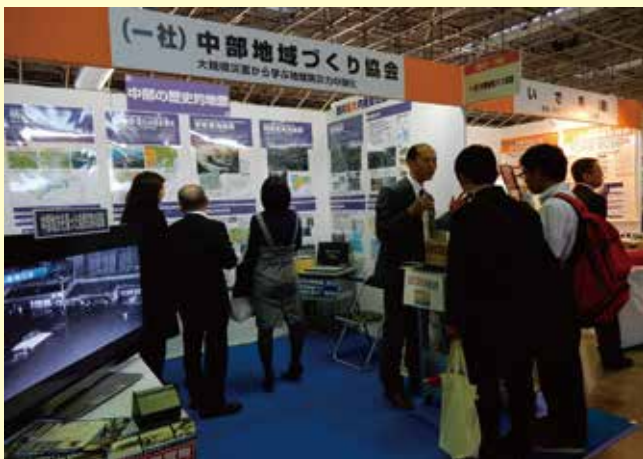
(構成: 中部地方整備局、東海農政局、中部経済産業局、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、名古屋市、静岡市、浜松市、(一社)中部地域づくり協会 含め40団体)

■来場者

約11,000名(2日間)

■実施内容

- 映像上映 モニター2ヶ所設置
上映DVD「中部を襲った自然災害の記録」
「迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて」「昭和34年 伊勢湾台風」
- パネル展示 計16枚
明応地震、宝永地震、安政東海地震、濃尾地震など中部の歴史的な地震 12枚
伊勢湾台風など中部の大規模水害 4枚
- 液状化実験
- 啓発資料
近年の豪雨災害記録集2013 “特集 9. 28豪雨災害から30年”



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.7

『 愛西市 佐屋地区 文化祭（防災・減災コーナー） 』に出展

愛西市佐屋地区で行われた文化祭の防災・減災コーナーに出展しました。南海トラフ巨大地震等の広域かつ甚大な被害が想定される中、地盤の液状化が懸念されるこの地域の方に、過去の災害を教訓とし、南海トラフ巨大地震に備えるべく防災意識を深めることを目的に、液状化実験・DVDの上映及びパネル展示等を通して、防災力の向上に向けた防災啓発活動を実施しました。

■実施年月日

平成26年11月 2日(日) 9:00~15:00

■実施場所

愛西市役所 東側駐車場

■主催

愛西市・市文化協会・市商工会・市佐屋地区文化祭バザー等実行委員会・市社会福祉協議会

■防災・減災コーナー見学者

約500名

■実施内容

- 映像上映 モニター1ヶ所設置
上映DVD 「迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて」「昭和34年 伊勢湾台風」
- パネル展示 計16枚
明応地震、宝永地震、安政東海地震、濃尾地震など中部の歴史的地震 12枚
伊勢湾台風など中部の大規模水害 4枚
- 液状化実験
- 啓発資料
近年の豪雨災害記録集2009 “特集 伊勢湾台風”

文化祭では降雨体験機や地震体験車などの体験型機材、防災クイズ、バザーなどが企画され、親子での参加が多く見られました。当協会ブースでは液状化実験が大変好評で、脆弱な濃尾平野にくらす人々にとって大きな関心をもたれました。再度体験したいという声もありました。



地域づくり技術研究所 活動報告

平成26年度 vol.8

『 防災講演会 』に協力

国土交通省中部地方整備局が主催する防災講演会に出展しました。この講演会は防災に関する理解を深め、地域の防災活動の一層の推進を図るため開催されました。当研究所はこの講演開場内で防災DVDの上映及びパネル展示等を通して、防災力の向上に向けた防災啓発活動を実施しました。

講演会では第1部「水との闘い半世紀新たな時代の水防災」をテーマに岐阜市水防協会・戸本敏夫氏による講演、第2部「中部地方の風土に刻された災害の宿命」をテーマに富士常葉大学名誉教授・竹林征三氏による講演が行われました。

■実施年月日

平成26年11月12日(水) 14:30~17:00

■実施場所

名古屋銀行協会会館 2階 1号室

■主催

国土交通省 中部地方整備局

協力：一般社団法人 中部地域づくり協会

■参加者

約150名

■実施内容

- ・ 映像上映
上映DVD「中部地方を襲った自然災害の記録」
- ・ パネル展示 計20枚
伊勢湾台風・東海(恵南)豪雨・平成23年台風15号など中部の大規模水害 17枚
未来への備え 3枚
- ・ 啓発資料
近年の豪雨災害記録集2013 “9.28豪雨災害から30年”



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.9

『 あいさい市民防災講演会 』に出展

愛西市が主催する防災講演会に出展しました。講演会に参加される方を対象に南海トラフ巨大地震等の広域かつ甚大な被害が想定される中、地盤の液状化が懸念されるこの地域において、過去の災害を教訓とし、南海トラフ巨大地震に備えるべく防災意識を深めることを目的に、液状化実験・DVDの上映及びパネル展示等を通して、防災力の向上に向けた防災啓発活動を実施しました。

会場内では、「必ず出会う地震災害をどう乗り越えるか」をテーマに名古屋大学減災連携研究センター長・教授福和伸夫氏による講演が行われました。

■実施年月日

平成26年11月15日(土) 17:00~18:00

■実施場所

愛西市 佐織公民館 ホワイエ

■主催

愛西市

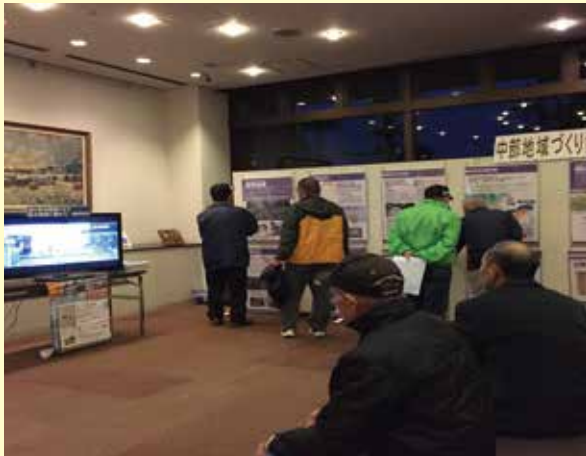
■参加者

約470名

■実施内容

- ・ 映像上映 モニター1ヶ所設置
上映DVD「迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて」
- ・ パネル展示 計16枚
明応地震、宝永地震、安政東海地震、濃尾地震など中部の歴史的地震 16枚
- ・ 液状化実験
- ・ 啓発資料
近年の豪雨災害記録集2009 “特集 伊勢湾台風”

講演会前に地震に関するパネル展示やDVD映像、液状化実験を紹介しました。
見学者から液状化対策に関するご質問が多く、関心の深さが伺えました。



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.10

『 第10回防災フェア やさしく迎えよう！南海トラフ巨大地震 』に出展

豊橋市等が主催する防災フェアに出展しました。セミナーに参加される方を対象に南海トラフ巨大地震等の広域かつ甚大な被害が懸念されるこの地域において、過去の災害を教訓とし、南海トラフ巨大地震に備えるべく防災意識を深めることを目的に、液状化実験・DVDの上映及びパネル展示等を通して、防災力の向上に向けた防災啓発活動を実施しました。

また、セミナーにおいて「過去の災害に学び備える」をテーマに講演を行いました。

■実施年月日

平成26年12月5日(金) ～ 6日(土)

■実施場所

アイプラザ豊橋

■主催

特定非営利活動法人東海リスクマネジメント研究会・豊橋市

■入場者

約1,000名(2日間)

■実施内容

展示コーナー

- ・ 映像上映 モニター1ヶ所設置
上映DVD「迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて」
- ・ パネル展示 計12枚
明応地震、宝永地震、安政東海地震、濃尾地震、三河地震など中部の歴史的地震 6枚
伊勢湾台風など中部の大規模水害 4枚
痕跡が伝えるもの 2枚
- ・ 液状化実験
- ・ 啓発資料
近年の豪雨災害記録集2013 “9.28豪雨災害から30年”

セミナー

- ・ 講演 「過去の災害に学び備える」 地域づくり技術研究所 所長 境 道男

この防災フェアでは企業の参加が多く、液状化実験を介して他業種の方と意見交換ができ、今後の啓発活動の参考となりました。また、セミナーにおいて新たな災害へ備えるために過去の災害から学ぶ意義について講演しました。



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.11

『庄内川水防災フォーラム “名駅地下街の浸水” タイムラインで命を救えるか?』に協力

中部地方整備局及び庄内川河川事務所が主催する庄内川水防災フォーラムに協力しました。このフォーラムは、近年、集中豪雨による浸水被害が頻発している中、庄内川が決壊した場合を想定し、名古屋駅周辺の浸水が予想されていることから、地下街利用者などに対し、何ができるかを議論することを目的に開催されました。当研究所はこのフォーラムに近年の豪雨災害記録集を提供しました。

■実施年月日

平成27年2月18日(水) 14:00~17:00

■実施場所

今池ガスホール

■主催

国土交通省中部地方整備局、国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所
協力:名古屋駅地区街づくり協議会、名古屋駅地区防火・防災管理協議会、
一般社団法人中部地域づくり協会

■入場定員

300名

■実施内容

- ・ 啓発資料の提供
近年の豪雨災害記録集2014

このフォーラムでは、主催者挨拶に始まり、国土交通省水管理・国土保全局海岸室長 井上智夫氏の基調講演「アメリカ・ハリケーン「サンディ」の報告」や学識者、行政、各種団体の関係者によるパネルディスカッションが行われ、タイムラインをテーマに地下街の浸水に対する議論が行われました。また、休憩時間には当研究所の啓発資料を読まれている姿が見受けられました。



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.12

『 中部地域づくり講演会 「河川学」が支える河川・流域の整備と管理 』を開催

長年にわたり中部地方の河川整備と管理についてご指導をいただいている辻本哲郎先生をお迎えし、講演会を開催しました。これからの河川管理における治水・利水・環境の目指すべき方向を、水災害に対する安全・資源の確保、生態系保全への貢献といった視点で講演していただきました。さまざまな災害が頻発し、また地球環境の保全が叫ばれる今、私たちに大きな示唆を与えていただける機会となりました。

■実施年月日

平成27年3月2日(月) 15:00~17:00

■実施場所

レセプションハウス名古屋通信会館 4階 ユニオンホール

■主催

一般社団法人 中部地域づくり協会

後援：国土交通省 中部地方整備局、公益社団法人 土木学会 中部支部、
中部地方巨大災害タスクフォース、一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中部支部

■参加者

約200名

■実施内容

- ・ 開会挨拶
一般社団法人 中部地域づくり協会 理事長 福田晴耕
- ・ 来賓挨拶
国土交通省中部地方整備局長 八鍬隆 氏
- ・ 講演
「河川学」が支える河川・流域の整備と管理
講師 名古屋大学大学院工学研究科教授 辻本哲郎 氏
- ・ 閉会挨拶
国土交通省中部地方整備局 河川部長 勢田昌功 氏



この講演会では、辻本教授が長年研究してこられた「河川学」の在るべき姿について、その河川管理への反映など広範囲に渡り、実験などの取り組みを交えながら、講演していただきました。

また、当協会では、風水害の頻発や災害体験の風化など自然・社会環境の変化に対応した地域防災力の強化を図るための調査研究を行っており、2005年8月に米国南部のニューオーリンズを襲った巨大ハリケーン「カトリーナ」に関する現地調査を始め、東海豪雨災害、大規模広域水害への取り組みについても講演の中で取り上げていただき、今後の河川管理や環境の整備・保全などへの方向性理解を深める機会となりました。



地域づくり技術研究所 活動報告 平成26年度 vol.13

『 広島土砂災害現地調査 』を実施

前線に伴う大雨により、8月20日広島市安佐南区、安佐北区において166箇所もの土砂災害が発生し、甚大な被害を受けました。

本調査は、中部地方における今後の土砂災害対応等について検討を深めるために、中部地方整備局や土木学会中部支部中部地方巨大災害タスクフォースと連携して、安佐南区緑井・八木地区の現地調査等を実施しました。

■実施年月日

平成27年3月3日(火)～4日(水)

■調査メンバー

土木学会 中部支部 中部地方巨大災害タスクフォース

大学教授等 3名

国土交通省 中部地方整備局 企画部及び河川部

一般社団法人 中部地域づくり協会

■実施内容

被害状況調査

- ・広島市安佐南区緑井地区及び八木地区 被害及び対応状況
- ・中国地方整備局担当官より聞き取り調査等



溪流上流部から被災地を撮影



溪流上流部の被災状況



応急対策（強靱ワイヤーネット工）



応急対策（大型土のう）



中国地方整備局より説明を受ける



中国地方整備局より聞き取り調査